

# 完了報告書

記入年月日 2025年2月16日

採択団体名: BornBond 産れるつなぐ防災プロジェクトによる「母子あんしん防災協議会」

## ■事業概要

基本情報	
事業名	妊産婦の命と暮らしを守る地域防災教育モデル事業 ～周産期医療施設を核とした共助型防災教育の推進～
事業内容	グループ③ 多様性・多分野に関する実践 本事業は、以下の3つの柱を軸に、妊産婦とその家族を対象とした防災教育を推進することを目的としています。 事業① 周産期医療施設を中心とした防災教育の実践 事業② 妊産婦の「自助」力向上を目指した防災教育の実践 事業③ 妊産婦を中心とした地域の支援体制の推進
事業背景	妊産婦や新生児は災害時に特に脆弱であり、避難・医療・生活支援において特別な配慮が必要です。妊娠期から産後にかけては、身体的・精神的に不安定になりやすく、社会的孤立も生じやすい時期です。周産期医療施設は、定期健診や分娩、産後ケアを通じて妊産婦と継続的に関わる重要な拠点です。災害時にも医療提供を継続する必要があるため、平時からの備えと地域との連携が不可欠です。しかし、妊産婦向けの防災教育は全国的に普及しておらず、実施率は約1割にとどまっています。その背景には、「時間がない」「担当者がいない」「何を教えればよいかわからない」といった課題があります。
コミュニティ 設立の経緯	こうした課題を受け、妊産婦支援に携わる研究者や助産師が中心となり、「母子あんしん協議会」を設立しました。既存の関係性を活かし、周産期医療施設と連携して防災教育を実施し、地域ごとのコミュニティ形成を進めています。 【コミュニティ形成における工夫と課題】 ●工夫した点 ・ スタッフ向け説明会を開催し、防災教育の必要性を共有した。 ・ 日常の指導に組み込める内容を提案し、無理のない導入を提案した。 ・ スタッフの意見を反映し、セミナーの実施内容を柔軟に調整した。 ・ 妊産婦が安心して参加できる環境づくりに配慮した。 ・ 既存の信頼関係を活かした。 ●直面した課題 ・ 周産期医療施設のスタッフの人手不足や多忙により、スタッフへの教育の時間確保が困難だった。 ・ 周産期医療施設で防災教育を行うことに対する「特別なもの」「やったことがないからできない」という固定観念の払拭が必要であった。 ・ 地域ごとのニーズの違いに対応するため、自治体の理解・協力など連携構築が課題であった。 ・ 継続的な取り組みとして定着させるため、防災の専門家からの働きかけが必要である。 ・ 妊産婦同士のピアサポートを促す仕組みづくりが求められる。
本事業に関する過去の 取り組み内容	代表者は、過去の災害事例を通じて妊産婦支援の課題を明らかにし、2019年以降、地域での防災教育活動を実施してきました。2024年の能登半島地震では、被災地の周産期医療施設で支援活動を行い、母子支援の重要性と平時からの備えの必要性を再認識しました。


事業体制	<p>本事業は、以下の3つの実践内容に基づき、周産期医療施設・自治体・支援者が連携して実施しました。</p> <p><b>事業① 周産期医療施設を中心とした防災教育の実践</b>  以下の医療施設が事業協力施設として参画し、運営計画の策定およびセミナー当日の実施に協力しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 西宮市:A産婦人科クリニック</li> <li>・ 協力内容:広報、運営計画の策定、セミナー当日の運営(助産師5名が参加)</li> <li>・ 神戸市:B助産院</li> <li>・ 協力内容:広報 運営計画の策定、セミナー当日の運営(助産師1名、保育士3名が参加)</li> <li>・ 洲本市:C助産院</li> <li>・ 協力内容:広報 セミナー当日の運営(助産師2名、保健師1名が参加)</li> </ul> <p><b>事業② 妊産婦の「自助」力向上を目指した防災教育の実践</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 妊産婦を対象に、事前学習として動画教材「妊産婦の防災アイデア」(全10本)を配信</li> <li>・ 周産期医療施設にて、シミュレーション演習を取り入れた体験型防災セミナーを実施</li> </ul> <p><b>事業③ 妊産婦を中心とした地域の支援体制の推進</b>  以下の自治体および支援者が、運営計画の策定およびセミナー当日の実施に協力しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 神戸市東灘区役所 保健福祉部 保健福祉課(職員3名が協力)</li> <li>・ 洲本市役所 総務部 消防防災課(職員1名が協力)</li> </ul> <p>その他支援者:保育士3名、保健師1名が協力</p>
全体スケジュール	<p>■9月～10月中旬:準備・体制構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 母子あんしん協議会による事業全体の調整・打ち合わせ</li> <li>・ 周産期医療施設との連絡・協力体制の構築</li> <li>・ 妊産婦向け防災教育プログラムの内容検討</li> <li>・ 教材(動画・展示教材等)の企画・作成開始</li> </ul> <p>■11月下旬～12月下旬:教材完成・広報・実施準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 展示教材の完成および動画教材の配信開始</li> <li>・ セミナー参加者・協力者の調整</li> <li>・ セミナー広報活動の実施</li> <li>・ セミナー当日の運営計画・リハーサルの計画・実施</li> </ul> <p>■1月:実施・振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 周産期医療施設でのセミナー予演の実施</li> <li>・ 妊産婦向け防災セミナーの本番実施</li> <li>・ 実施内容の記録・成果の整理・分析</li> </ul>
事業目標・事業成果	
事業目標全般 (教育提供者側)	<p>■防災教育の提供者:母子あんしん防災協議会と周産期医療施設、自治体</p> <p>事業内容①:周産期医療施設を中心とした防災教育の実践  事業内容③:地域自治体、妊産婦、周産期医療施設との連携体制の推進</p>
事業成果全般 (教育提供者)	<p>事業内容①・③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周産期医療施設3か所で防災教育を実施し、各施設で助産師・保育士・保健師など計12名が運営に参画</li> <li>・自治体2か所(神戸市・洲本市)と連携し、セミナー運営に職員4名が協力</li> <li>・地域の医療・福祉関係者と顔の見える関係を形成した。</li> </ul>
事業目標全般 (参加者側)	<ol style="list-style-type: none"> <li>①妊産婦が災害を「自分ごと」として捉え、日常生活の中で備える意識を高める。  災害が自分や家族にも起こりうることを実感し、主体的に備えを考える姿勢を育む。</li> <li>②発災直後にとるべき基本行動を理解し、身につける。  緊急地震速報が鳴った際に、安全な姿勢をとるなど、初動対応の行動を体験を通じて習得する。</li> <li>③妊産婦や乳児に必要な備蓄品や持ち出し品を自ら考え、家庭での備えを具体化する  自分たちの生活や体調に合わせた備えを検討し、実行可能な準備につなげる。</li> <li>④地域の避難所や避難経路、支援体制について知り、災害時の行動をイメージできるようになる  地域の避難環境や支援者の存在を理解し、避難時の選択肢を持てるようになる。</li> <li>⑤地域の支援者や他の妊産婦・家族とのつながりを通じて、共助の意識を育む。  参加者と体験を共有する中で、顔の見える関係性を築く。</li> </ol>


<p>事業成果全般 (参加者側)</p>	<p>事業内容②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・妊産婦とその家族を対象に、体験型セミナーを3地域で実施(各回90分)</li> <li>・参加者からは「災害時の備えについて家族と話すきっかけになった」「他の妊婦さんと話せて安心した」などの声が寄せられた。</li> <li>・動画教材の視聴を通じて、妊娠期からの備えや育児中の災害対応についての理解が深まった。</li> <li>・参加者アンケートでは、「防災意識の向上になった」「今後も継続して防災について学びたい」「具体的な例があってわかりやすかった」「有益な情報が沢山あった」と回答</li> </ul>
<p>展開できる 知見やノウハウ</p>	<p>本事業を通じて得られた知見や成果物は、他地域や関連機関においても活用可能な汎用性を有しています。以下に、主な展開資源を紹介します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●妊産婦向け防災教育動画教材 「Born Bond」うまれる・つながる”防災プロジェクト”YouTube チャンネル <a href="https://www.youtube.com/channel/UCWN9lPquQAs0hVJ8AGjYMQg">https://www.youtube.com/channel/UCWN9lPquQAs0hVJ8AGjYMQg</a></li> </ul> <p>妊娠期から産後1年未満の女性とその家族を対象に、日常生活や育児に取り入れやすい防災のアイデアを紹介しています。</p> <p>内容は、妊産婦の特性に即した実践的な備えや行動を中心に構成されており、両親学級や地域の防災啓発活動にも活用可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●妊産婦を中心とした防災教育の提案と支援体制の構築 「Born Bond」うまれる・つながる”防災プロジェクト”公式ホームページ <a href="https://bornbond.studio.site/">https://bornbond.studio.site/</a></li> </ul> <p>本事業で実施した体験型防災セミナーの内容や運営方法を紹介するとともに、助産師・看護師など周産期医療の専門職が学び合うネットワークを構築・継続しています。</p> <p>また、妊産婦向け防災教育に関する先行研究や実践事例も掲載しており、今後、周産期医療施設や地域で防災教育を導入・展開したい団体への相談窓口としても機能しています。</p>
<p>コミュニティ防災教育の重要な観点</p>	<p>地域で妊産婦向けの防災教育を実施するうえで、開催場所の安心感と参加者との信頼関係の構築が重要です。妊産婦や乳児を連れた家族からは、「地域の一般的な防災訓練には参加しづらい」といった声が多く聞かれます。そのため、妊産婦が安心して参加できる、安全で配慮の行き届いた学びの場を整える必要があります。</p> <p>また、妊産婦や乳児は月齢や妊娠週数によって生活や育児の状況が大きく異なるため個別性に応じた、先を見越した情報提供**が求められます。画一的な内容ではなく、対象者の状況に応じた柔軟な対応が、防災教育の実効性を高めます。</p> <p>さらに、妊産婦や乳児のいる家庭は地域住民全体の約0.6%とされ、地域内で孤立しやすい傾向があります。SNSなどで情報は得られても、地域の中で「顔の見える関係性」を築くことは容易ではありません。このような背景から、災害時に支え合えるピアサポートの関係性を平時から育むことが重要です。防災教育の中で、妊産婦同士がつながり、互いにコミュニケーションを取れる場を提供することで、共助の基盤を地域に根付かせることができます。</p>


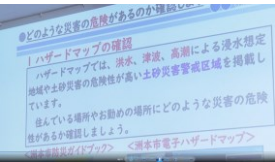
<p>残課題等</p>	<p><b>【本事業を通じて明らかになった主な3つの課題】</b></p> <p><b>1. 周産期医療施設における防災教育の担い手育成の必要性</b>  周産期医療施設では、スタッフの業務が多忙で、防災教育に割ける時間や体制が限られていました。また、防災教育が「特別な業務」と認識されており、日常業務の一環として取り組む意識の醸成が課題となりました。今後は、現場で実践可能な教育モデルの提示や、スタッフの意識改革・研修機会の充実が求められます。</p> <p><b>2. 地域特性に応じた支援体制と自治体連携の構築</b>  地域ごとに災害リスクや妊産婦支援の体制が異なるため、画一的な防災教育の導入が難しい状況がありました。自治体との連携には、相互理解と信頼関係の構築に時間を要し、継続的な働きかけが必要です。今後は、地域特性を踏まえた柔軟な連携モデルの構築が求められます。</p> <p><b>3. 妊産婦同士のピアサポート形成の機会不足</b>  妊産婦は地域内で孤立しやすく、防災教育を通じたピアサポートの形成が重要です。しかし、本事業で実施した90分間の体験型セミナーでは、参加者同士の関係構築には時間的制約があり、十分な交流には至りませんでした。今後は、継続的な交流機会の提供や、地域に根ざした支援の場づくりが課題となります。</p> <p><b>【今後の展望】</b></p> <p><b>1. 防災教育を担う人材の育成と仕組みづくり</b>  防災教育を日常業務に組み込むため、助産師や看護師を対象とした研修プログラムや運営マニュアルを整備し、現場で実践しやすい体制を構築します。また、教育動画や教材を活用し、スタッフの負担を軽減しながら継続的に取り組める仕組みを整えます。</p> <p><b>2. 地域特性に応じた柔軟な連携の構築</b>  各地域の災害リスクや支援体制に応じた防災教育のカスタマイズを進め、自治体や地域医療機関との連携を強化します。顔の見える関係性を築くため、定期的な情報交換や共同研修の実施を通じて、持続可能な協働体制を目指します。</p> <p><b>3. ピアサポートを育む継続的な交流の場づくり</b>  妊産婦同士がつながり、支え合える関係性を育むため、単発のセミナーにとどまらず、継続的な交流や学びの場を設けます。地域の子育て支援拠点との連携も通じて、共助の芽を育てていきます。</p>
-------------	---

■事業内容

事業内容①:周産期医療施設を中心とした防災教育の実践	
事業内容①目標 (提供者側)	<p>周産期医療施設における目標</p> <p>①周産期医療施設において、防災教育を日常的な支援活動の一環として実施できる体制を検討する</p> <p>②スタッフ(助産師・看護師等)が、防災教育の担い手としての意識と知識を習得する</p> <p>③各施設における防災教育の継続的な実施に向けた体制づくりを検討する</p> <p>④周産期医療施設の特性に応じた、実践的かつ対象者に寄り添った防災教育を提供する</p>
事業内容①目標 (参加者側)	<p>地域コミュニティにおける共助の重要性を理解し、自らの備えと地域とのつながりの必要性を認識する。</p>
<p>事業内容① 実施内容 スタッフ向け説明会の開催 実施日: A 病院 11月6日 12月11日 B 助産院11月7日 C 助産院12月19日</p>	<p>●周産期医療施設スタッフ向け説明会での資料一部</p> <p><b>妊産婦向け防災教育の“すずめ”</b></p> <p>1. なぜ、妊産婦さんに特別な防災教育が必要なのか?</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 周産期の時期は、社会の防災教育・啓発から取り残されがち 例) 会社の避難訓練に参加できない 自治体の避難訓練に参加しづらい 出産して初めて「子ども連れて被災する現実」に直面する</li> <li>● これまでの大災害における妊産婦さんの実態(別紙参照) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害時、妊産婦さんは孤立し、支援が途切れる</li> <li>・ 長期的には産後うつや虐待、乳児の健康障害につながる</li> </ul> </li> </ul> <p>➢ 妊産婦さんが最も困難なこと 「物が手には入らない」「子どもと一緒にイレもいけない」 「居場所がない」「日常生活ができない」「どうしたらいいかわからない」 「もっとひとがいるから」と我慢してしまうこと</p> <p>2. なぜ、産科や助産所などの周産期医療施設で妊産婦向け防災教育が必要なのか?</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 妊産婦の心身の変化、脆弱性を理解している医療職が伝えることが重要</li> <li>・ 妊産婦は定期的に受診しているため、継続的に情報を届けやすい</li> <li>・ 妊産婦自身から「両親学級や医療施設で防災の話を知りたい」というニーズがある</li> <li>・ 他の疾患患者(糖尿病・腎透析・医療的ケア児の保護者など)には医療機関で防災教育が行われているが、妊産婦向けは全国で約1割程度</li> <li>・ 実施できない理由: 時間がない/担当できるスタッフがいない/内容がわからない など</li> <li>・ 実施を可能にするためには: 冊子などの利用しやすい教材 具体的な健康教育の内容が知りたい 母子健康手帳への記載 など</li> </ul> <p>⇒ 周産期に関わるスタッフは平常時から妊産婦の心と身体の安全・安心を支える存在 災害時も切れ目のない母子支援を行い、妊産婦さんが自分らしく新しい家族形成を続けられるようエンパワメントできる防災教育が必要</p> <p>3. 防災教育の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 妊産婦自身の「自助・共助」を促す教育は、災害時の医療負担を軽減する。</li> <li>・ 周産期のスタッフが防災教育に関わることで、平常時から信頼関係を築き、災害時の支援がスムーズになる。</li> <li>・ 防災教育は特別な追加業務ではなく、日常の健康教育の延長線上にある。 例) 普段の両親学級で一部取り入れる 妊娠期から産後の健康・生活・育児を指導する内容の一部取り入れる。</li> <li>・ 平時から多様な育児方法や生活方法を知ることが、災害時に役立つ。</li> <li>・ 妊産婦が、本当に困るのは、被災後の生活・育児の場面、どのようにして元に戻すかの! (動画例) 授乳や離乳食の工夫、清潔ケア、在宅避難のコツなど</li> <li>・ 防災教育は妊産婦さんの安全・安心を守るだけでなく、防災教育を実施するスタッフ自身の災害への意識を高め、いざという時に動ける行動につながる。</li> </ul> <p>■具体的な取り組み 協力機関のスタッフ(助産師・看護師等)を対象に、防災教育の必要性や実施方法に関する説明会を開催した。 協力機関のスタッフにも妊産婦向け防災教育動画教材を提供し、施設内での活用を促進した。</p> <p>■ 成果(提供者側) スタッフからは以下のような反応が得られた。 「防災教育の必要性が理解できた」 「知らなかったことを知ることができた」「病院として取り組んでいきたい」 「やることがないので不安がある」 「教えてもらえるなら実施してみたい」 妊産婦向け防災教育の必要性について、一定の理解と共感が得られた。 セミナー当日の運営に協力するスタッフを各施設から確保することができた。 今後の継続的な実施に向けた意欲や課題意識が共有され、体制づくりの第一歩となった。</p>
<p>事業内容① 実施内容 運営を共に考える場の設定と調整 実施日: A 病院 12月25日 B 助産院 12月25日 C 助産院12月19日</p>	<p>■具体的な取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スタッフの同意のもと、オンラインまたは対面で運営計画に関する打ち合わせを実施した。</li> <li>・実施場所や施設内の動線、使用可能な部屋・備品について事前に確認・調整した。</li> <li>・各施設の状況に応じて、運営計画案をもとに具体的な実施方法を共に検討した。</li> <li>・通常業務への影響を最小限に抑えるよう配慮しながら、体験型セミナーの安全性確保に必要な人員体制を協議した。</li> </ul> <p>■成果 (周産期医療施設スタッフの反応)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スタッフからは以下のような声が寄せられた: 「自宅の備えも見直したいと感じた」「初めての取り組みで不安もあるが、できる範囲で協力したい」「妊産婦に何を伝えればよいか分からなかったが、話し合いを通じてイメージが持てた」</li> <li>・各施設の実情に即した運営方法を共に検討することで、現場の理解と協力を得ることができた。</li> <li>・防災教育の実施に向けた具体的な準備が進み、施設ごとの実施体制の土台が整った。</li> </ul>

<p>事業内容①を実施する中で発生した課題や失敗点</p>	<p>■発生した課題や失敗点          ・スタッフの人手不足や多忙により、教育や打ち合わせの時間確保が困難だった          ・防災教育に対する「特別なもの」「経験がないからできない」といった固定観念が根強く、実施への心理的ハードルがあった。          ■乗り越えた方法          ・オンラインと対面を併用し、柔軟に説明会や打ち合わせを実施した。</p>
<p>事業内容①を実施する上で工夫した点</p>	<p>・スタッフの負担を軽減するため、役割や協力内容を調整した。          ・各施設の業務状況に配慮し、無理のない範囲での協力を依頼した。          ・妊産婦と乳児の安全を最優先に、セミナー実施時の人員配置や動線確保を事前に調整した。</p>
<p>事業内容① 残課題等</p>	<p>・周産期医療施設における防災教育の担い手育成と仕組みづくりが引き続き必要である。          ・防災教育を日常業務に組み込むため、助産師・看護師向けの研修プログラムや運営マニュアルの整備が求められる。          ・教育動画や教材を活用し、スタッフの負担を軽減しながら継続的に取り組める体制の構築が今後の課題である。</p>
<p>事業② 妊産婦の「自助」力向上を目指した防災教育の実践</p>	
<p>事業内容②目標 (提供者側)</p>	<p>・妊産婦が日常生活の中で防災を意識できるよう、妊娠期から産後に必要な備えや行動を紹介する動画教材「妊産婦の防災アイデア」(全10本)を作成・配信する          ・周産期医療施設において、シミュレーション演習を取り入れた体験型防災セミナーを実施し、妊産婦が実践的に学べる機会を提供する。          ・体験型セミナーでは、協力機関のスタッフ(助産師・保健師・保育士等)が妊産婦と共に参加し、共助の視点を育む場とする。</p>
<p>事業内容②目標 (参加者側)</p>	<p>1.災害を「自分ごと」として捉える意識を育む          妊産婦自身が災害を身近なリスクとして捉え、日常生活の中で備えを意識できるようになる。          2.発災直後に適切な初動対応ができる力を身につける          緊急地震速報などの発令時に、安全な姿勢をとるなど、基本的な行動が自ら判断・実践できるようになる。          3.必要な備えを自ら考え、準備できるようになる          妊産婦や乳児に特有のニーズを踏まえ、必要な防災グッズや備蓄品を自ら選び、備える力を養う。          4.地域の避難行動や避難所を理解する          自宅周辺の避難場所や避難経路、避難所の環境について理解し、災害時に適切な行動がとれるようになる。          5.地域とのつながりや共助の重要性を理解する          災害時における地域コミュニティの役割や、妊産婦同士・地域住民との支え合いの大切さを理解する。</p>
<p>事業内容② 実施内容 ・動画教材の開発・ 配信</p>	<div style="display: flex;"> <div style="flex: 1;"> <p>■具体的な取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・妊産婦向け防災教育動画教材「妊産婦の防災アイデア」(全11本)を独自に開発し、YouTubeチャンネルにて公開した。</li> <li>・各動画は2～3分程度で、妊娠期から産後1年未満に必要な備えや行動を、イラストやナレーションを用いてわかりやすく解説した。</li> <li>・体験型防災セミナーの参加者には、事前学習として動画の視聴を促し、当日の理解促進とセルフケアの向上、行動変容を支援した。</li> </ul> <p>■成果(参加者側)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・セミナー受講者10名に対し、動画の総視聴回数は配信開始から約2か月で1,000回を超え、活用されている。</li> <li>・セミナー後に視聴数が増加しており、参加者の関心や学びの継続につながっていることがうかがえる</li> <li>・視聴者からは以下のような肯定的な声が寄せられた。「2～3分で見やすく、育児の合間にも視聴できる」「イラストが多く、内容がわかりやすい」「繰り返し見られるので、家族とも共有しやすい」等</li> </ul> </div> <div style="flex: 1; border-left: 1px dashed gray; padding-left: 10px;"> <p>●動画教材の一部</p>  <p>ママになる前から ちょっとだけ もしも、を考える</p> <p>全10本の動画で防災のアイデアを紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 妊婦と赤ちゃんのママの命を守る「最初の行動」</li> <li>▶ 妊婦と赤ちゃんのママのモノの備え「プラスONE」</li> <li>▶ 'いつも、が'もしも、につながる赤ちゃんのママの暮らし</li> <li>▶ 家族・地域とのつながり</li> </ul> <p>赤ちゃんのママの身体を守るもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☑ 母子健康手帳 あなたと赤ちゃんの命の記録 予防接種記録も記載されている</li> <li>☑ 間食 母乳育児のママには必須 避難所までのエネルギー源</li> <li>☑ 地震の後、初めて口にしたいが 作パンに入れていたチョコプレートでした</li> </ul> </div> </div>

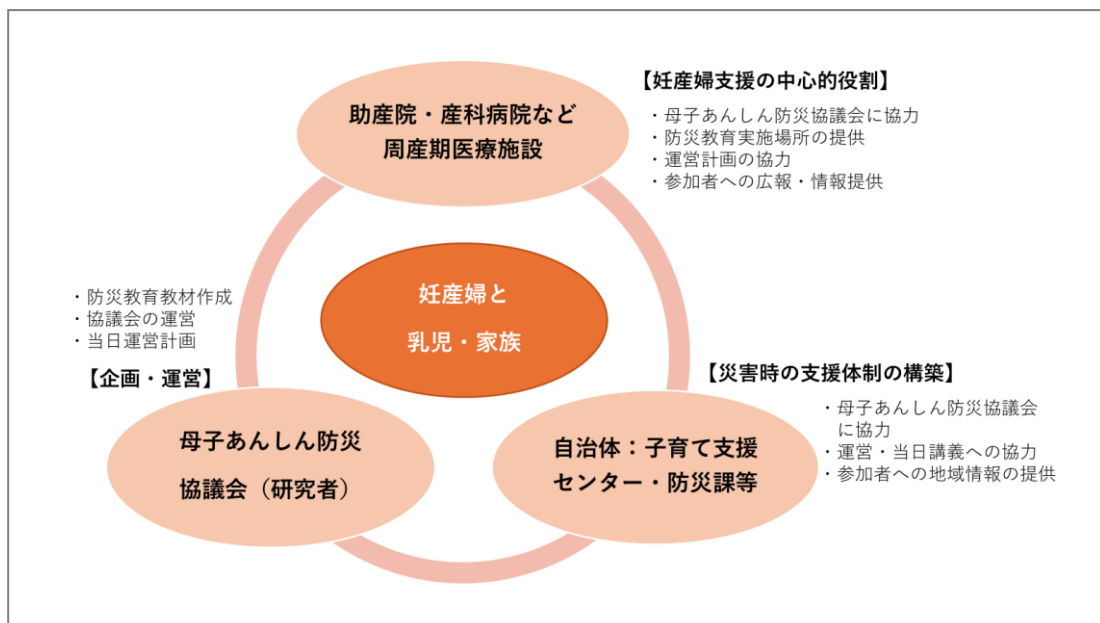
<p>事業内容② 実施内容 体験型防災セミナー 実施 ・1/12 神戸市 ・1/24,25 西宮市 ・2/1 洲本市</p>	<p>■具体的な取り組み内容 ・周産期医療施設において、妊産婦とその家族を対象とした体験型防災セミナーを実施した。 ・セミナーでは、発災直後の初動対応(安全な姿勢の取り方)や、災害時の生活・育児に必要な備えについて、実物を用いた体験を通じて学習した。</p> <p>■ 成果(提供者側) ・セミナーには、協力機関から以下の支援者が参加し、運営・指導に携わった。 助産師:8名、保健師:4名、保育士:3名 ・スタッフ自身も妊産婦と共に体験することで、防災教育の必要性や伝え方への理解を深める機会となった。</p> <p>■ 成果(参加者側) ・計4回のセミナーに、以下の参加者が参加した。 妊婦:2名、乳児の保護者(女性):7名 パートナー(男性):3名 ・参加者はいずれも、開催施設で定期健診・分娩・産後ケアを受けている利用者であり、身近な場所での開催が参加の後押しとなった。 ・セミナーでは、発災時の「命を守る姿勢(ダンゴムシのポーズ)」を実践し、「外出中の地震を想定していなかった」「子どもを守ることに必死になる」といった気づきが得られた。 ・備えに関する体験では、実際の物品に触れることで、「全く備えていなかった」「必要なものは自分で選ぶ必要がある」「これから持ち出し袋を準備したい」といった具体的な行動意欲が生まれた。</p>	<p>●セミナーの様子</p> 
<p>事業内容②を実施する中で発生した課題や失敗点</p>	<p>■発生した課題や失敗点 (動画作成) ・一般向けの動画教材において、どの程度まで専門的な内容を説明すべきか、また、どのような表現や言葉遣いが適切かについて、何度も検討を重ねる必要があった。 ・イラスト作成者・動画制作者と代表者(研究者)との間で、伝えたい内容や表現方法に関する認識のずれが生じ、複数回の修正作業が発生し、完成までに想定以上の時間を要した。</p> <p>(体験型防災セミナー) ・実施施設ごとに、使用可能なスペースや備品、動線などの条件が異なっていたため、セミナーの構成や進行方法にばらつきが生じた。 ・一部の会場では、十分なスペースが確保できず、体験型の構成を一部変更し、講義形式を取り入れるなどの対応が必要となった ・妊産婦や乳児の安全を確保するため、施設ごとに動線や人員配置を再検討する必要があり、当日の運営において柔軟な対応が求められた</p> <p>■乗り越えた方法 (動画作成) ・妊産婦向け防災教育に関する先行研究をもとに、伝えるべき内容を独自に精査し、情報の取捨選択を行った。 ・妊産婦とその家族が「自分ごと」として防災を捉えやすくなるよう、妊産婦を登場人物としたイラストを用い、具体的な生活場面を描写することで共感を促した。 ・イラスト制作は、これまでに妊産婦向け防災教育に携わった経験のあるイラストレーターに依頼することで、代表者の意図を的確に反映し、制作の円滑化を図った。</p> <p>(体験型防災セミナー) ・各施設の構造や使用可能なスペース・備品を事前に確認し、施設ごとの運営計画をスタッフと共に検討・調整した。 ・十分なスペースが確保できない会場では、講義形式と体験型を組み合わせるなど、柔軟なプログラム構成に変更した。 ・妊産婦と乳児の安全を最優先に、移動範囲や使用物品を限定し、必要な人員配置を事前に確保することで、安全な運営体制を整えた。 ・スタッフとの事前打ち合わせを通じて、施設ごとの制約や配慮点を共有し、進行方法を明確化した。</p>	

<p>事業内容②を実施する上で工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動画教材では、妊産婦が「わがこと意識」を持ちやすいように、妊産婦自身を登場人物としたイラストを用い、被災時に遭遇しやすい具体的な場面を描写した。</li> <li>・1本あたり2～3分の短時間で視聴できる構成とし、育児や家事の合間でも無理なく学べるよう配慮した。</li> <li>・イラストやナレーションを活用し、専門用語を避けたやさしい表現で、誰にでもわかりやすい内容とした。</li> <li>・体験型セミナーでは、実際の物品に触れる・使う・動いてみるといった体験を通じて、参加者の気づきと行動変容を促した。</li> <li>・施設ごとの環境や制約に応じて、講義形式との組み合わせや動線の工夫など、柔軟な運営を行った。</li> <li>・妊産婦とその家族が安心して参加できるよう、安全性やプライバシーに配慮した会場設計と人員配置を行った。</li> </ul>
<p>事業内容② 残課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動画教材のさらなる普及と活用促進** 動画の視聴数は一定の成果を上げたが、より多くの妊産婦や家族に届けるためには、医療機関・行政・地域団体との連携による周知・活用の仕組みづくりが必要である。</li> <li>・体験型セミナーの継続的な実施体制の構築 単発のセミナーでは参加者同士の関係性構築や行動変容の定着に限界があるため、継続的な学びの場の確保が課題である。</li> <li>・参加者の多様性への対応 妊婦・産後女性・パートナー・多胎家庭・外国人家庭など、参加者の背景やニーズに応じた柔軟なプログラム設計が求められる。</li> <li>■今後の展望</li> <li>・動画教材の多様な場面での活用促進 両親学級や母親学級、産後の保健指導における個別指導、地域の子育て支援拠点などでの活用を促進し、妊産婦が日常的に防災を学べる環境を整える。</li> <li>・体験型セミナーの定期開催と地域展開 周産期医療施設や地域の子育て支援施設と連携し、定期的なセミナー開催を目指すとともに、他地域への展開を視野に入れたモデル化を進める。</li> <li>・参加者同士のつながりを育む仕組みづくり セミナー後のフォローアップや、交流の場の提供などを通じて、妊産婦同士のピアサポート形成を促進し、共助の基盤を強化する。</li> </ul>
<p>事業内容③：妊産婦を中心にした地域の支援体制の推進</p>	
<p>事業内容③目標 (提供者側)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①妊産婦の特性や災害時の課題を理解し、支援に必要な視点を共有する</li> <li>②地域の防災体制に妊産婦支援の視点を組み込む</li> <li>③顔の見える関係性を構築し、平時からの連携体制を強化する。</li> </ol>
<p>事業内容③目標 (参加者側)</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①住んでいる地域の災害時のリスクを理解する。</li> <li>②住んでいる地域の避難所や地域の支援窓口、保健師・助産師などの支援者の存在を知り、いざというときに頼れる先を検討する。</li> </ol>
<p>事業内容① 実施内容 自治体との運営体制の検討 実施日・実施場所 ・11月21日、 1月6日：神戸市東灘区役所 保健福祉課  ・1月19日：洲本市役所 総務部 消防防災課</p>	<p>■具体的な取り組み内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治体の保健師および消防防災課職員と、妊産婦向け防災セミナーの運営体制や役割分担について協議を実施した。</li> <li>・地域の災害リスクや妊産婦向けの避難所、住む地域からの避難経路など妊産婦支援の視点を踏まえた防災教育の必要性について意見交換した。</li> <li>・セミナー当日の支援体制や、自治体職員の役割、地域資源の活用方法などについて具体的な調整を行った。</li> </ul> <p>■成果(提供者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治体職員がセミナー当日の運営に協力者として参画し、地域の防災体制と妊産婦支援の接続が実現した。</li> </ul> <p>■成果(参加者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で配布されているハザードマップを用いて自らの居住地域における災害リスクや避難所の場所・経路を把握した。</li> </ul>
 	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健師・助産師・保育士などの支援者と直接対話する機会があった。</li> <li>・他の妊産婦と地域のことを話す交流することができた。</li> <li>・地域の保健師さんと顔の見える関係性ができた。</li> </ul>	
事業内容①を実施する中で発生した課題や失敗点	<p>■発生した課題や失敗点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の保健師との連携が困難であった自治体も存在した。 一部の自治体では、保健師が多忙のため、協議やセミナーへの参加を断られるケースがあり、地域連携の構築に課題が生じた。</li> <li>・「妊産婦向けの防災教育は初めてで、何を話せばよいかわからない」「自分には引き受けられない」といった声が聞かれた。</li> </ul> <p>■乗り越えた方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協力依頼文章を送り、代表者から直接話を聞いてもよいと興味・関心を示した自治体に対しては、主旨や目的を丁寧に繰り返し説明し、理解を深めてもらうよう努めた。</li> <li>・当日の運営における役割分担については、支援者の負担が少ない範囲で依頼するよう配慮した。</li> </ul>	
事業内容①を実施する上で工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協力依頼の際には、文書に加えて代表者が直接説明する機会を設け、主旨や目的を丁寧に伝えた。</li> <li>・担当者の状況に応じた柔軟な関わり方を設計した。</li> <li>・担当者に応じた運営計画を調整した。</li> </ul>	
事業内容①残課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊産婦に特化した防災教育が制度的に明確な役割として定められていないため、関係者の主体的な関与を得ることが難しい場合がある</li> <li>・担当者の資格や役割が異なるため、統一的な運営モデルの構築が困難である。</li> </ul> <p>■今後に向けた計画変更・検討事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災教育の導入を希望する自治体・施設を対象に、段階的な導入支援を検討する。</li> <li>・支援者の業務負担を軽減するため、外部支援者(地域の助産師、子育て支援団体等)との連携体制の構築を模索する。</li> <li>・防災教育の意義や効果を可視化し、自治体内での理解促進と制度化に向けた働きかけを強化する。</li> </ul>	

■参考資料

◆ 運営体制図



## コミュニティ防災教育推進事業

### 「事前学習、体験、振り返り」の3ステップで行う

#### 妊産婦向け防災教育

##### プログラムの目的

本プログラムは、周産期医療施設を核として、妊産婦・家族が災害時にも安心して避難・出産・育児を継続できる地域防災力（自助・共助）を高めることを目的とする。具体的には、動画教材による事前学習と体験学習・振り返りからなる3ステップを通じて、当事者（妊産婦・家族）には、地震発生時～発災直後の行動選択と、避難所等で必要となる配慮・準備の要点を学び、実行可能な備えと判断力を獲得させる。同時に、支援者（助産師等の周産期医療従事者）には、妊産婦の立場（身体条件・不安・ニーズ）を踏まえた支援の観点と、当事者向け防災教育を実施・支援する際の要点（伝え方・場づくり・地域資源への接続）を学び、周産期医療施設を中心とした支援体制の実装につなげる。

#### 妊産婦向け防災セミナー 体験学習 運営案

- ・本プログラムは3つのステップで運営する

STEP1：事前動画の視聴

STEP2：体験学習

STEP3：住む地域への理解

##### 【STEP2・3】

##### ●体験セミナーでの目的

妊産婦・家族が、発災直後の安全確保と初期対応を体験し、家庭での備え、判断基準を具体化する。

##### ●対象者：妊産婦およびその家族、助産師等の周産期医療従事者

##### ●学習目標

1. 災害に対するわがこと意識を育成する
2. 発災直後の基本行動：緊急地震速報発令時に、安全な姿勢が取れる
3. 妊産婦とその家族に必要な“モノ”の備えを自ら考えることができる。
4. 地域での避難を知る
5. 地域コミュニティ・共助の重要性を理解する

スケジュール概要				
時間		目標	項目	留意点(方法や物)
0:00～ 0:05	導入 開会・趣旨説明・ アイスブレイク	・参加者の緊張をほぐす 1. 災害のわがこと意識 を育成する	導入 1) オリ エンテーション 2) 参加者の自己紹介 3) 本日のスケジュール説明	PPT マット 机・椅子 バスタオル 授乳クッション
0:05～ 0:40	第1部 体験 「発災直後の命を 守る行動」	1. 災害のわがこと意識 を育成する  2. 発災直後の基本行動: 緊急地震速報発令時に、 安全な姿勢が取れる	第1部 体験 「発災直後の命を守る行動」 ①「自宅内で」 ②「外出中」 ・各自の姿勢を確認 ・振り返り ・安全な場所・危険な場所の確認	・スタッフも実施 ・緊急地震速報 の音量注意 ・できている点 を認める
0:40～ 1:10	第2部 体験と講義 「被災後の生活・ 育児に必要な物」	3. 妊産婦とその家族に 必要な“モノ”の備えを 自ら考えることができ る。	第2部 体験と講義「被災後の生 活・育児に必要な物」 1. グループワーク 「非常持ち出しバッグの中身を考 える」 2. 避難所で起こりやすい困りごと 3. 赤ちゃん和妈妈におすすめのグ ッズ紹介「見る・触れる・考える」 4. 簡易トイレ作成	イラストカード ・持ち物 ・備蓄品 ・持ち出し袋
1:10～ 1:25	第3部 講義 地域を知る	4. 地域での避難を知る 5. 地域コミュニティと 共助の重要性を理解する	1) 導入 災害時、物の備えも大切ですが、“人 とのつながり”や地域の情報が大切 2) 講義 地域の災害リスク ハザードマップ・避難場所・避難 経路 3) 振り返り・共有 地域の相談者や窓口は？ 必要な連絡先は？	
1:25～ 1:30	クロージング・ 振り返り	学びを振り返り 行動につ なげる	1) 終わりの挨拶 2) 感想 3) アンケート 回答	家族への共有の 促し、安心感の 言葉かけ

◆ 当日セミナー説明スライドの一部

赤ちゃん和妈妈のための防災セミナー  
～発災時の命を守る行動と備えを知る～



母子あんしん防災協議会  
船川由美子

\*赤ちゃん:1歳未満のお子さんのこと  
\*本日は妊婦さん・1歳未満のお子さんとお母向けの特別版です  
\*令和7年度内閣府「コミュニティ防災教育事業」で実施

1

オリエンテーション

**【安心してご参加いただくために】**

- 災害をイメージする場面があります。  
つらくなったら、いつでも中断してください。
- トイレ・授乳・オムツ替え、水分補給は自由です。
- 座り方は自由(あぐら・椅子・抱っこなど)
- 赤ちゃんのお世話をしながら大丈夫です。
- 赤ちゃんが泣いても気にしない

2

【タイムスケジュール】(90分)

- オリエンテーション
- 第1部 体験「発災直後の命を守る行動」  
①「室内で」②「外出中に」
- 第2部 体験と講義  
「被災後の生活・育児に必要な物は？」
- 第3部 地域を知る
- 振り返り・質問

3

【自己紹介】

- ・ お名前
- ・ 住んでいる地域
- ・ あれば・・・今日楽しみにしていること

4

南海トラフ地震が起きたら“あなた”への影響は？

阪神・淡路大震災:マグニチュード7.3 震度7。  
\*神戸市一部、兵庫県豊前町付近、西宮市夙川付近、宝塚市一部、淡路島の東北部

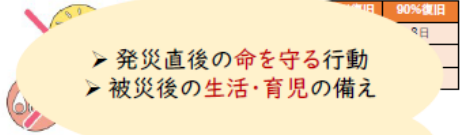


南海トラフ地震(M9 震度7)  
・震度6強の揺れ: 立っていることができず、はわないと動くことができない。揺れにほんろうされ、動くこともできず、飛ばされる。固定していない家具のほとんどが移動、倒れる。  
・地震による火災によって被害想定(兵庫県・大阪府など)

5

南海トラフ地震が起きたら“あなた”への影響は？

生活への被害想定



- 発災直後の命を守る行動
- 被災後の生活・育児の備え

1か月  
ガス1か月

6


第1部 体験  
発災時に自分と子どもの命を守る行動とは？

「大地震が来た!!!  
あなたなら、どうする？」

7

発災時に自分と子どもの命を守る行動とは？

①室内



あなたは室内(自宅)にいます。  
赤ちゃんと一緒にいるときに、  
緊急地震速報が鳴りました。  
あなたなら、どうしますか？

8

発災時に自分の子どもの命を守る行動とは？

緊急地震速報

- ・緊急地震速報が鳴ってから大きな揺れが来るまでの時間は、震源からの距離によって異なる
- ・「速報が鳴った=すぐ揺れる」ではなく、数秒～数十秒の“備える猶予”がある。
- ・この短い時間で、机の下に入ったり、命を守る行動ができる
- ・震源が真下だったり、速報より先に揺れが来る場合もある。
- ・速報が鳴らなくても揺れを感じたらすぐに安全行動をとる

9

「日曜日の13時ごろ あなたは  
いつも、どこで過ごされていますか」



10



## 妊婦さん & 小さいお子さんのママ 防災セミナーのご案内



「見て・聞いて・備えよう」「知らなかった」を安心に変える

妊産婦さんに特化した体験型の防災セミナーを開催します。



今日からできる BOUSAI のアイデアをご紹介します。



◎セミナー開催日：●月●日（●）13：30～（約90分）

◎お申し込み：QRコードにアクセスして必要事項をご記入ください。

\*要予約：1月29日（水）まで

◎場所：●●●●●

妊産婦向け防災セミナー  
案内動画⇒



### 【防災セミナーの内容】

#### ★妊婦さんと赤ちゃん・ママの命も守る最初の行動

・自宅の中！外出中に！ 緊急地震速報がなったら、どうする？



#### ★妊婦さん・小さいお子さんのママと家族に必要な備え

・非常持ち出しバッグの中身は？在宅避難では何を備えたらいいの？  
・災害時の育児はどうなるの？

#### ★避難場所・避難経路（●●市の△△さんからお話を伺います）

・どこに避難する？自宅からの避難経路は？車を使っていいの？

#### 妊産婦さんへの防災アイデア動画配信中

YouTube 配信

#### YouTube チャンネル「@BornBond 防災プロジェクト」

・妊産婦の安心を育てる 10 の防災アイデア ・1本2～3分程度 合計30分程度  
・いつでもみたい時に・みたい場面を繰り返し視聴して学べる

【セミナーに関するご質問・お問い合わせ先】 E-mail: bornbond.bousai@gmail.com

企画・運営 Born Bond “うまれる・つなぐ” 防災プロジェクト

関西国際大学 保健医療学部 母性・助産学領域 細川 由美子






◆ 妊産婦向け防災動画教材 URL


## 妊産婦向け防災アイデア 10 の動画

YouTube チャンネル 「Born Bond”うまれる・つなぐ”防災プロジェクト」





### I. 妊婦さんと赤ちゃんの命を守る「最初の行動」

- |                |   |   |
|----------------|---|---|
| 1. 発災時に命を守る行動  | <a href="https://youtu.be/msa2vy8hPnw">https://youtu.be/msa2vy8hPnw</a> |  |
| 2. 妊婦がとるべき緊急対応 | <a href="https://youtu.be/zfaZtfAnL44">https://youtu.be/zfaZtfAnL44</a> |  |
| 3. 避難・移動のコツ    | <a href="https://youtu.be/cZ2B3Ns4b5s">https://youtu.be/cZ2B3Ns4b5s</a> |  |

### II. 妊婦と赤ちゃんのモノの備え「プラス ONE」

- |                                       |   |   |
|---------------------------------------|---|---|
| 1. いつものバッグが「もしも」<br>の安心プラス ONE (1 日分) | <a href="https://youtu.be/1zL9_MSzFo">https://youtu.be/1zL9_MSzFo</a>   |   |
| 2. 持ち出し袋 2 日分 &<br>“ちょい足し” 備蓄のプラス ONE | <a href="https://youtu.be/yNqZV8AAAME">https://youtu.be/yNqZV8AAAME</a> |  |

### III. いつもの育児が、「もしも」につながる 赤ちゃん和妈妈の暮らしとケア

- |               |   |   |
|---------------|---|---|
| 1. 授乳と離乳食の工夫  | <a href="https://youtu.be/sE8mjsaMVPs">https://youtu.be/sE8mjsaMVPs</a> |  |
| 2. 清潔ケア       | <a href="https://youtu.be/HuWEtW0ITiA">https://youtu.be/HuWEtW0ITiA</a> |  |
| 3. ママの体調と心のケア | <a href="https://youtu.be/pLqUcs6SmvE">https://youtu.be/pLqUcs6SmvE</a> |  |
| 4. 在宅避難の工夫    | <a href="https://youtu.be/euNokvJZ2fs">https://youtu.be/euNokvJZ2fs</a> |  |

- |                 |   |   |
|-----------------|---|---|
| IV. 家族・地域とのつながり | <a href="https://youtu.be/oRuIHqij1uw">https://youtu.be/oRuIHqij1uw</a> |  |
|-----------------|---|---|

- ◆ 事業の紹介(Born Bond プロジェクト 母子あんしん防災協議会の取り組みホームページ)  
<https://bornbond.studio.site/>



うまれるいのちを、  
みんなで支える

妊婦さんや小さなお子さんを育てるママ同士がつながり、  
医療や地域と協力しながら、  
どんな時も、どこにいても、  
安心して「産む」「育てる」ことができる社会へ。  
いのちを守り、女性の生きる力を再び取り組みを進めています

03

専門職の力を、地域から全国へ。

助産師をはじめとする専門職が、  
災害時の妊産婦女性に必要な知識と技能を高められるよう  
取り組んでいます。  
地域を超えて支えが強く包みこむ取り組みをしています。

現在の取り組みと、これから

Born Bondでは、研究で得られた知見をもとに、  
妊産婦向けの防災教育や  
地域連携の取り組みを広げています。

**Born Bond**  
"うまれる、つながる"防災プロジェクト

HOME BornBondについて 活動の紹介 研究室について 動画教材 お問い合わせ

妊産婦向け防災セミナーを  
実施しました

Workshop Report

妊産婦さんとそのご家族を対象に、防災をテーマとした体験型セミナーを開催しました。  
当日の様子は地域のテレビでも取り上げられ、取り組みの輪が広がっています。



妊産婦向け防災セミナー